

	全体	海上物資輸送訓練 船舶奉仕団	炊き出し訓練 小松島地区赤十字奉仕団 小松島市社会福祉協議会	要援護者安否確認 小松島市介護福祉課 小松島高校、民生委員等	AED講習会 小松島市消防本部	その他
9:00	9:00 準備開始					
	9:20 開会式		9:30 訓練開始	9:30 参加者説明会		9:20 パネル展示 パンフレット配布
10:00		10:00 訓練開始	10:10 あめ湯配給	10:00 訪問開始	10:00 講習会①	
11:00					11:00 講習会②	
		11:30 訓練終了	11:30 五目御飯配給 11:40 訓練終了	11:30 訓練終了	11:40 講習会③	
12:00	12:00 閉会式					12:00 終了
13:00	13:00 反省会					

訓練成果と主要な意見

小型船舶を利用した海上物資輸送訓練や、地元ボランティアによる炊き出し訓練、防災教育としての高校生や地元住民へのAED講習会など“みなとオアシス”を舞台に連携した訓練が行えました。地域における自助・共助の取組を有機的に結びつける良いきっかけになったと思われます。特に行政の対応能力を超える大災害時には、自主的な地域での自助・共助の取組が重要な役割を果たすと言われております。

今回の訓練では、各団体の役割、ボランティアリーダーの重要性を再認識するとともに、試験的に取り組んでみた要援護者の安否確認訓練では、行政を含め関係者間における情報共有等が課題として浮かび上がりました。現在、自主防災組織が無い本地域においても、訓練を通じて一部の関係者からは自主防災組織が必要との意見や、避難所の円滑な運営等のためにも調整役としての地域のリーダー、日頃からの住民コミュニケーションの養成が重要といった意見が述べられ、地域振興を主目的としてきた“みなとオアシス”の防災面での役割に対する期待を改めて感じたところです。

参考

「みなとオアシス」の高度化による災害応急対策の補完に関する調査

(平成21年度 財団法人ウォーターフロント開発協会実施)

港を利用した地元の自主的な災害応急対策には、日頃から施設や場所を使いこなしている地域に密着した運用主体が存在することが重要です。

“みなとオアシス”には、オープンスペースやトイレ・休憩所等、様々な災害時に転用の効く施設があるとともに、イベント運営等、人が集まる活動のノウハウに長けた運用主体が存在しており、そこに防災機能を組み入れることで、有事の際、災害応急対策を補完する仕組みが出来やすいと言えます。

そこで、みなとオアシスを常時の賑わい空間としてだけでなく、災害発生時の使い方等を含め、災害応急対策を補完するみなとオアシスの機能について検討してきたところです。

モデルケースとして、小松島みなとオアシスにおける周辺緑地等を含めた災害時の活用案を取りまとめました。



※検討会参加メンバー：NPO、日本赤十字社、社会福祉協議会、地元ヨットクラブ、漁協、行政機関等